

① はまなか

# 議会だより

NO120

平成29年4月25日発行



希望の一步 (茶内小学校)

## 3月定例会

予 算 議	後継者就業交付金制度は	4P~10P
	委員会レポート	12P~13P
一 般 問	6人の議員が町政を問う	14P~19P
	麗 澤 (小西 泰成 さん)	20P

# 産業基盤づくりを支援する予算

平成29年度の一般会計予算

総額73億9280万円に

3月  
定例会  
8日～15日

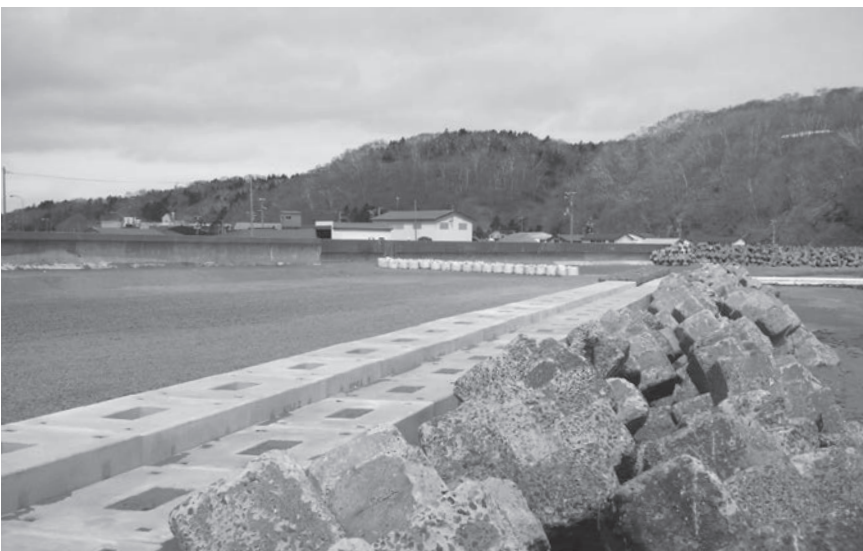
平成29年第1回定例会が3月8日から、8日間（休会日2日含む）の会期で開かれました。町長から町政執行方針、教育長から教育執行方針が示され予算審議など活発な議論が展開されました。今定例会には、平成28年度の補正予算をはじめ、平成29年度当初予算および条例の制定など26議案が上程され、いずれも原案どおり可決しました。また、一般質問では6人の議員が登壇しました。

## 政策の3本柱を継続

- 地域を支える地場産業の振興
- 災害に強いまちづくり
- 若い世代への子育て支援の充実

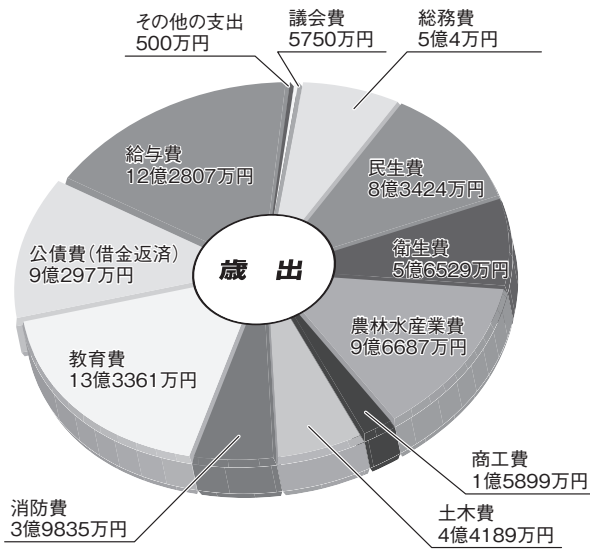
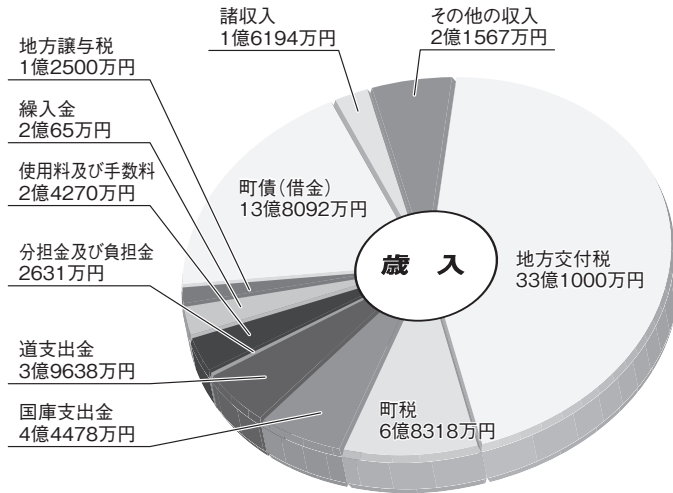
## 〈主な施策〉

- 一、産業後継者対策として  
新規支援月額5万円の助成
- 一、港湾漁港関連施設の整備
- 一、新規就農者等の育成対策
- 一、丸山散布避難道の調査設計
- 一、庁舎建設の実施設計は  
補正予算で対応
- 一、茶内保育所の新築に向けた  
実施設計
- 一、妊産婦への新たな相談・ケア  
事業の推進



整備が進む散布漁港

# 予算の概要



平成29年度一般会計内訳

Ⅱ総合計画の指針  
実現に向けた予算Ⅱ

## 平成29年度各会計の当初予算

会計別	歳入歳出予算額		増減率(%)	一般会計からの繰出金	
	平成29年度	平成28年度			
一般会計	73億9280万円	63億1982万円	17.0		
特別会計	国民健康保険	14億4226万円	14億2092万円	1.5	7347万円 ←
	後期高齢者医療	6806万円	7008万円	△ 2.9	2104万円 ←
	介護保険	4億4971万円	4億3485万円	3.4	6793万円 ←
	浜中診療所	2億5504万円	2億5043万円	1.8	1億4942万円 ←
	下水道事業	4億1228万円	4億3710万円	△ 5.7	3億0559万円 ←
水道事業会計	2億4747万円	2億6095万円	△ 5.2	5353万円 ←	
合計	102億6762万円	91億9415万円	11.7	6億7805万円 ←	

# 予算審議から

## 後継者就業交付金制度は

### ※制度の概要

町独自の新規事業で、町内で就業を目指す新規卒業者やUターン者へ対し、支援を行うことで担い手の確保と定住人口の増加に寄与することを目的とし、交付規則の要件を満たした者に月額5万円を就業から最大36ヵ月交付する制度である。

**問** 待望の支援制度であり評価できるものであるが、交付対象者を決める上で、性別・年齢・身体的なハンデや漁業にあつては漁期によつて通年就業できない場合などの制約は。

また、年度途中でも申請は可能か。

**答** 承認申請要件には、各産業団体からの推薦が必要であり、後継者として位置付けられていることから、指摘のような制約はない。

また、申請時期は定めていない。

**問** 交付方法は、毎月5万円を支給することで就業への励みにもなり、社交の場・出合いの場への参加も促さ

れ、婚活支援にもなり得る。ただ、公費を充てるからには何らかの担保が必要と思ふが。

**答** 交付金は、年度末に「実施状況調書」を添えた「状況報告書」の提出により就業実態を確認した上で、年度ごとの就業月数額の支給となる。まずは本規則で実施をし、その後の意見・提言を基に検証を重ねより良い制度としていきたい。

なお、交付終了（3年）後の2年間は「状況報告書」の提出を義務付けており、

また承認段階での不正が発覚した場合は、交付金の返還を命じるものとしている。

**問** 町広報で本制度のお知

らせは掲載されていたが、進路を決定する前の中学・高校生に対するPRが必要と思われる。本制度のみならず、各生活支援の内容を学校などを通じて周知徹底を図ることで定住者増につながるのでは。

また、本事業の利用促進を目指し、交付決定者を顔写真入りで広報に掲載しては。

**答** Uターン者も含め若い世代へのPR活動は、何らかの形で実施したい。

写真掲載については、申請時期のバラツキも考えら

れることから、関係各課と検討していく。

**問** 定住促進を図るには、後継者対策だけでなく、民



浜中漁協青年部のトバづくり

間企業・事業所での就業者にも目を向ける必要がある。現状、人手不足から操業を断念するケースもあり、労働力不足が顕著になりつつある。男女を問わず、町内に如何に人を残すかが喫緊の課題と考えるが。

**答** 人口減少対策は、最重要課題の一つである。

まずは、本事業を軌道に乗せ効果の検証などを踏まえた後に、制度の拡充や新たな制度の策定を視野に協議検討を進めていく。

**問** 後継者対策には、結婚支援も重要な対策である。農業後継者対策協議会は町補助120万円を受けさまざまな活動をしている。

他の産業にあつては、活動母体すらない状況である。以前から、行政課題としての取り組みの必要性を提起しているが、産業別の取り組みではなく町全体の問題と捉え、地域おこし協力隊の活用、登録制の導入や庁舎内での専任部署の創設など、具体的な対策が求め

られるが。

**答** 従来までは、親も含む当事者、各団体の主体的な取り組みに対し、町は支援をしていくとの立場であったが、それでは解決できな

い時代・時期に来ているとの認識を持つていくところである。具体的に何ができるかを前向きに考えるためにも、各団体は元より女性部・青年部などと一緒に協議検討を進めていく。

## 公の集会施設の 改修と解体工事は

**問** 浜中環境改善センター  
改修工事4610万円の改  
修内容と耐用年数および予  
定工期は。改修時は利用に  
支障が無いか。

また、浜中生活館の解体  
工事820万円は高額では  
解体を決める物件を選定す  
る基準は。

発注方法と解体時期およ  
び跡地利用は。

**答** 改善センターは平成3  
年の建設で築25年経過、耐  
用年数は建物全体の主構造  
で47年。改修内容は外壁塗  
装や屋根防水で10年過ぎに  
メンテナンスが必要。工期

は5月中旬から9月中旬で、  
使用には支障が無いと判断  
している。

生活館は昭和47年建設で  
築45年経過。国の補助金で  
建設。主たる部分が鉄骨構  
造であるため費用が嵩む。

国へ財産処分の手続き(用  
途廃止)を済ませてから入  
札による解体となり、工事  
期間は60日を予定。解体基  
準は特になく地元との協議

によって修理で対応できな  
いものを解体するとしてい  
る。跡地利用は、地元の意  
見を参考に協議していき  
たい。

## 茶内支所の耐震診断と改修計画は



手狭な業務窓口

**問** 茶内支所の耐震診断委  
託料290万円の発注時期  
と診断結果の判明はいつ頃か。

また、窓口業務の手狭さ  
玄関で靴を脱いで事務室に  
入る使い勝手の悪さなどを  
解消するため耐震診断とは  
別に改修計画を。

**答** 現在の支所は、現耐震

基準前の昭和53年に建築し  
ており耐震診断が必要であ  
る。発注は6月頃と考えて  
おり調査は6ヵ月位、年内  
には一定の判断が出る。

使い勝手の悪い玄関ホー  
ルの改修計画は耐震診断の  
結果が出てから合わせて改  
修できるか住民のニーズも  
聞いて検討したい。

## ふるさと納税PRサイトの拡充は

**問** 昨年の2

月末ふるさと納税実績は1745万円。

28年から、「ふるさとチョイス」というサイト

でPRした結果、1億500万円に

膨らんでいる。根室市や厚岸町にはおよば

ないがこのサイトの効果は大きい。他市

町村では、別のサイトも利

用して返礼品のPRをしているが、本町も多くのサイトを

活用し、浜中の物産を各方面にPRすることで産業振興に繋がると思うがその計画は。

**答** ふるさと納税に関して本町は「ふるさとチョイス」というサイトで寄付を募りPRしているが、他にもいろいろ

なサイトがあるようなのでそれらの状況を確認し利用を検討したい。

## 「ゆゆう」の修繕と将来方向は

**問**

ふれあい交流保養センター「ゆゆう」の修繕料513万円の詳細を。

また、「ゆゆう」は築16年経過しており風車も修繕費が年々費用が嵩んでいる。これまで「ゆゆう」の施設と風車の将来の方向性を検討すべきと指摘してきた。運営方法などその後の検討状況は。

**答** 修繕の詳細は特殊建築物の調査で指摘された外壁の補修2・5平方メートル50万円。浴室1と2と露天風呂の目地補修で98万円。温泉棟の熱交換プレート

の清掃で23万円、「ゆゆう」本体の3系統の熱交換プレートの清掃で65万円、露天風呂系統の熱交換プレートの清掃が25万円。

床カーペットの張替を3カ年で計画しており、今年度90平方メートル100万円。洋式トイレ6カ所をウォシュレット化する補修が44

万円、女子トイレ和式3個のうち2個の洋式化で57万円、男子トイレの小便器の補修で12万円。

突発的な補修で30万円を予定している。また、「ゆゆう」は計画的にリフォームしているが近い将来ポイント

ー本体の取り換えが必要である。

将来展望は、それらを踏まえて実際に指定管理を受けたいという業者もある。そのため

に多少の改修が必要で具体的ななれば検討していきたい。いずれはそのようにしたいと思っ

ている。風車の修理は付帯施設



修繕費が高んできた「ゆゆう」

故障で本体は、まだ大丈夫なので稼働させていきたい。ただ、FITの買い取り価格(キロワットあたり23・76円)があと2年程度であり、その後は通常の買い取り価格(キロワットあたり12・29円)となるので費用対効果を検討したい。

※FITとは再生可能エネルギーの固定価格買取制度

## 茶内保育所の建設は

**問** 茶内保育

所建設工事実施設計委託料2750万円の納期は。

また、28年度より保育料の軽減が図られたが、児童

数の状況は。一時預かり

保育は霧多布保育所のみで行っているが

茶内保育所で行う考えは。

**答** 納期は6月上旬発注で12月中旬までの予定。

また、平成29年3月現在、茶内保育所で67人、霧多布

保育所で48人の入園者があり、平成28年度当初より人数は増えている。保育所の負担軽減を行ったことが入

所しやすい状況になったと考える。

茶内保育所での一時預かり保育は、平成31年度の供用開始に合わせ行う予定である。それまでは、霧多布

保育所での利用となる。

## ハイツ野いちごの状況は

**問** 「野いちご」の職員体制と入所状況は。

また、今後の施設改修計画は。

**答** ハイツ野いちごの職員は、7〜8人不足している。現在、介護

職員2人と看護職員2人と看護師1人の募集をしており、そのうち霧多布高校卒業生1人を採用。

入所状況はショートステイは10人のところ7〜8人で、施設入所者は50人の定員のところ、41〜42人の受け入れとなっている。

また、町内の待機者は20人位である。施設改修は、建設費の補助が平成27年度で終了し、

昨年度から施設改修の補助をしている。中長期計画の中では28年度、電動ベッドの総入れ替えができた。

また、29年度はナースコールの入れ替えとボイラーの増設を予定。

## インターネット環境の整備は

**問** FWA（無線による加入者系データ通信サービス）基地局の修繕料の内容とN.T.Tが霧多布地区に光回線の整備した経緯と整備する際の経費負担はどうであったか。

また、新たに光回線を整備する場合の費用は。

**答** 修繕料63万円は、数年前に光回線が来ていない地域に無線でインターネット環境を整備する事業を実施している。その基地局の無線装置の支持金物を交換するもの。

また、霧多布地域への光回線の導入は、N.T.Tが整備するにあたって、役場本庁舎のある霧多布地区から整備したいとの話を受け、実施されたもので、本町に

思われるので、町単独では難しい。

## 基金残高は

**問** 各基金の残高は。また、土地開発基金の振替は。

**答** 基金の3月末残高は、次表の通り。

土地開発基金は土地を先行取得する予定もなく、土地開発公社も解散しているので、時期を見計らい、一般財源化し、役場庁舎建設財源か財政調整基金へ積立たい。

単位：万円

基金名	28年度末残高
財政調整基金	12億6077
減債基金	2億8068
開基記念事業基金	1126
人づくり基金	4534
福祉振興基金	3833
医師処遇改善基金	4784
新規就農者等育成基金	388
育英事業基金	3111
水産振興基金	5604
特定防衛施設周辺整備調整交付金基金	5480
土地開発基金	3684
総額	18億6689

## カキ養殖試験事業補助は

**問** 予算12万円の内容と、浜中漁協が計画している新たな海域でのカキ養殖試験事業への対応は。

用も念頭に置いて検討中である。試験事業の結果によつては今後、公共事業としての位置づけも可能性として考えている。

**答** 計上した予算は、現在

浜中漁協が取り組んでいる養殖海域へ、栄養塩(炭・鉄・腐葉土)60個を垂下投入しカキの成長経過を見定める試験事業へ補助するもの。また、新たな海域での試験事業は、漁協とも協議をしており数千万円規模となることから、水産振興基金の活



期待されるカキ養殖試験事業

## 恋する灯台のPRとドローンの活用は

**問** 観光客誘致宣伝に要する経費の広告料41万円および観光案内板作成と空撮映像製作委託料33万円は恋する灯台に関わる経費で、日本ロマンチスト協会が道内で唯一選んだ湯沸岬灯台で

ある。報道によると灯台を起点としたデートコースを創るなど灯台ツーリズムを確立したいとのことであるが、その活用方法など具体的な構想は。

また、空撮映像の製作にはドローンを活用すると思ふが観光面に関わらずドローンの有効活用が考えられる。白糠町で導入されおり、先進地の視察を行うなど今後、導入を検討していく考えがあるか。

**答** 灯台周辺の活用は、平成28年度、観光協会が主体となり今後の活用方法を検

討しており、今年度岬を起点とした観光ルートづくりを予定している。また、ドローンで灯台周辺の風景を撮影した画像を編集してブルーレイに落とし観光協会のホームページでPRする予定である。自前による全体的なドローンの活用は、防災対策や

港の管理面など多様に利用できるのではと予算編成段階で協議したが、今年度は操作の方法などの研修・講習会の実施や視察を行い、複数の職員が使用できるようになれるかを検証し、諸問題をクリアした後、30年度以降、ドローンの導入を検討したい。



恋する灯台 (湯沸岬)



## 町立厚岸病院への 救急医療負担金は

**問** 夜間・土日・休日の患者受け入れの割合は、平成26年度で22・4割、この受診率が10割以下であれば負担を求めないという協定であるが27年度の実績は何割か。

また、今年度予算額1455万円は昨年度より25

3万円増えているがその要因は。

**答** 平成29年度の負担金は平成27年度の実績に基づいて算出されており、救急外来患者割合が21・8割となっている。

予算計上の根拠は平成27年度の収支不足額が5800万円となっており1000万円ほど増えている。

その要因は、平成26年度まで非常勤だった外科の医師が通年雇用となったことで人件費などの増加である。

## 新たな妊産婦への

## 相談ケア事業とは

**問** 乳幼児健診等委託料796万円の中にある妊娠出産包括支援事業の内容は。

**答** 妊娠出産包括支援事業は国の50割補助の新規事業である。

事業の一つは産前産後サ

ポート事業1

08万円で福

祉保健課健康

推進係と一部

釧路町の助産

院マタニティ

アイに委託し

て実施する事

業。具体的な

内容は妊産婦

が抱える出産

や子育てに関

する悩みなど

について助産

師や保健師が

相談支援を行

うもの。

二つめは産

前産後ケア事

業185万円で助産院マタニティアイに委託。産前産後の母子に対して心身のケアや育児のサポートなどを行い安心して子育てができる支援体制を確保するもの。具体的な内容は、妊娠中の母子の健康チェックと相



妊産婦相談を行う助産院

談支援。出産後は、健康チェックと乳児の沐浴やオイルマッサージ、母子育児などの相談支援を行う。

宿泊型は、産後の身体の回復や在宅生活に不安のある人に対し、母子ともに宿泊

での支援を行う。妊娠中の人でも希望があれば宿泊型サービスを利用できるようにしたい。

また、このサービスは食事の提供も行う。

## 水取場防潮堤の嵩上げは

**問** 道の事業であるが、事業計画年数・距離・高さ・

事業費などは。

また、私設

干場への道路

整備は。

実施。

私設道路は、その時期までに3者で協議していく。

**答** 道の計画

では、29年度

から32年度ま

での予定で、

延長1200

メートル・嵩上げは

約1メートル・総事

業費は9億5

千万円で、今

年度は140

メートルを1億円で

昆布漁に影響

のない時期に



嵩上げされる水取場防潮堤

## ノコベリベツ川監視カメラ 設置の費用対効果は

**問** ノコベリベツ川の河川

氾濫を把握するため、監視カメラの設置工事に681万円が計上されている。これまででは職員や地元消防団員が目視で確認し、避難勧告や土のう袋を積み、河川の雑木を切って雨水の流れを早くするなど対策がされてきた。監視カメラ設置で職員や消防団員が行う業務が減るのか費用対効果を考える疑問である。どこに監視カメラを設置しどこでモニターを見て災害対応するのか。また、実行性ある対策の視点として、国道から下の支障木の伐採にこの予算を

使うべきと思うが。

**答** 監視カメラの設置場所は人道橋がある共済組合側で、そこにLED照明灯と雨量計を付け、NIT回線を利用して防災対策室のパソコンでの視聴が可能となる。雨量計は、設置業者が独自にサーバーに取り込ん



監視カメラが設置されるノコベリベツ川

で数字的な処理をし、その業者とアドレス調整し、高速で確認できるようになる。また、効果的なのは国道に架かっている橋の水が抜ける所を広げれば水位は下がると思う。雨量計は柿町の観測データのみであり現場のデータにより災害対応したいとの思いがあるので予算計上したものだ。必要だと思っているのは是非設置したい。

## 丸山散布の避難道は

**問** 丸山散布避難道路調査設計委託料307万円の予算が計上された。この事業の調査場所と発注時期、納期は。

**答** 調査場所は、丸山散布町営住宅のところから入り直線的に糸魚沢林道に向かい1200メートルで6月

## MO-TTOかぜでの運営は

**問** 28年度予算計上されていた管理委託料185万円が全額減となった理由と、臨時雇上賃金の増額、備品の購入費との関連は。

**答** 衛生管理者配置の考えは。施設管理経費削減を目的に、28年度まで業者委託していた芝の管理をやめ、自前で行うための臨時職員1人分の増額と芝刈機購入の予算計上。また、スタッフ増員を機に、資格取得、管理者配置を検討したい。

に発注して3月中旬までと考えている。調査区間に一部沼地があり立ち入り困難なところもあることを考慮しての納期設定である。また、基本計画によって課題が解決すれば平成30年度実施設計と用地測量、地質調査設計を行い、31年度から工事着手の予定。



整備が待たれる丸山散布避難道入口

## その他の予算審議（抽出）

- \* 顧問弁護士の利用は
- \* 役場庁舎のウォシユレット化を
- \* 特殊建築物定期報告調査手数料は
- \* テレビ中継局の修繕内容は
- \* ストレスチェックと人事評価制度は
- \* 公共施設等総合管理計画の公表は
- \* 「ゆづゆ」の施設および風車の将来の方向性は
- \* ピリカ金券の使用期限と実績は
- \* 障がい者福祉サービス費の増額は
- \* 障がい者福祉計画作成委託料は
- \* 社会福祉協議会補助の減額は
- \* 高齢者在宅生活支援事業委託料は
- \* 茶内診療所診療業務委託料は
- \* ドクターヘリの利用件数は
- \* 電話健康医療相談は
- \* 地域生活支援事業の内容は
- \* 斎場の修繕料とその時期は
- \* 住民健診の受診率は
- \* 資源物リサイクル活動奨励交付金の実績は
- \* 循環資源利用促進税は
- \* ごみ収集業務委託料の増額は
- \* 可燃物ごみ焼却業務委託料の過去の推移は
- \* 新川河口の改修工事は
- \* 丸山散布物場場の整備は
- \* 漁港工事地元負担金は
- \* 霧多布港北防波堤の改修は
- \* 農地整備事業の内容は
- \* 農業用施設購入費は
- \* エゾシカ等有害駆除は
- \* 産業振興資金貸付金の内容は
- \* 建物解体工事の内容は
- \* 霧多布湿原調査に係る報告書は
- \* 後継者対策に対し各団体の考え方は
- \* キャンプ場の管理は
- \* 岬まつりとルパンフェスの同時開催は
- \* 町道維持管理委託料の増額は
- \* 公営住宅建設予定は
- \* 安心住まいる促進事業の対象事業の拡大内容は
- \* 防災行政無線デジタル化工事の概要は
- \* 学習クラウドサービスとは
- \* 給食センター経費の内容は
- \* 霧多布高校校舎補修費は
- \* 小学校施設管理人の配置は
- \* 奨学給付金の内容は
- \* 新入生入学祝い金の内訳は
- \* 総合体育館の修繕費は
- \* 高校バス委託料は
- \* 校舎補修工事費の内容は
- \* 町営住宅使用料の減額計上は

## その他の主な歳出（一般会計）

歳出の内訳	金額
浜中中学校校舎補修工事	3040万円
障がい福祉サービス費	1億4779万円
浜中姉別地区道営農道整備事業負担金	2250万円
中山間地域等直接支払交付金	2億0365万円
新規就農者誘致事業補助	3922万円
林道開設工事（姉別新行線 L=1, 200m）	2520万円
国直轄港湾整備事業管理者負担金	6700万円
町道除雪業務委託料	4000万円
教育用パソコン等購入（霧多布中学校・散布中学校）	2153万円
学校給食センター改築工事（継続費）	6億8832万円

### 条例の改正を議決

□ 浜中町立へき地保育所条例の一部を改正する条例  
 ・ 茶内第一保育所は今後において、入所児童が見込めないことから平成29年3月31日をもって閉所することによる一部改正。

### 補正予算を議決

#### ■ 一般会計

備荒資金組合納付金（積立金）として7800万円を追加するほか、財政調整基金積立金5010万円、除雪費に2千万円、ふるさと納税お礼品1100万円などを追加補正。  
 また、年度末における事業費の確定などによる減額で、予算総額を65億8千万円とした。

#### ■ 特別会計など

平成28年度実績見込みに基づき補正。

# 委員会レポート

## 総務経済 常任委員会

### 防災対策を早急に

10月31日から3日間、宮城県石巻市の復興状況や富山県高岡市の昆布流通などを視察し、3月定例会で報告

#### ◆調査の概要

##### ○震災からの復興状況

###### ・宮城県石巻市

石巻市は東日本大震災で最大の被害を受けたことから、現在は復旧復興事業とともに減災のまちづくりを進めている。

高さ4・5メートルの河川堤防と7・2メートルの海岸防潮堤や市内を居住可能地区と不可能地区に分ける盛土型道路を建設中。

また、民間の建物を津波避難ビルとして指定するほか、避難タワーも4基整備されていた。

##### ○水産業の復興

###### ・宮城県石巻市

東日本大震災による全壊から5年、石巻魚市場は東洋一の規模を誇る高度衛生管理型の施設として復興を遂げた。魚介類の放射能測定など「見える化」による安全・安心な水産物の提供

#### ◆調査意見

##### ○観光振興について

###### ・富山県高岡市

石巻市荻浜地区のカキ養殖は震災により壊滅的な被害を受けながらも他県へ種カキを出荷できるまでに再生していた。

高岡市の昆布卸問屋では昆布消費の状況、今後の課題について意見交換を行った。

##### ○調査意見

###### ・宮城県石巻市

石ノ森萬画館は故石森章太郎氏の記念館で市が設置し、第三セクターによる運営。震災による被害もあったが、現在は観光スポット・市民の憩いの場となっている。

※ほかに富山県、石川県の道の駅などを視察

本町の課題として  
防災対策は、役場庁舎の

建設と併せ、避難施設の充実や高台を持たない地域の避難対策、特に避難道路の整備など着手可能なものから早急に取り組むとともに計画的な減災策の策定・実施を望む。

水産業の振興は、石巻産のカキ（半生貝）を活用し当町のカキ養殖事業を拡大できる可能性が高いことも確認できたので、事業の本格的な支援が望まれる。

昆布の流通状況は、本町産昆布の潜在的価値が高く評価されていることが確認できた。昆布の安定供給の確保・販路拡大の方策が必要と感じた。

観光振興においては、ルパンフェスティバル

の来場者が年々増加していることを踏まえ、関連展示物、物販環境の充実が必要である。新庁舎建設に伴い、将来空きスペースが生じるであろう町有施設の有効活用を望む。

また、道の駅構想の推進は、当町を訪れる観光客のニーズや動態を十分に調査した上で事業を展開するのはもちろんであるが、町民の憩いの場となる施設を目指すことが重要である。



復興が進む石巻市のカキ養殖施設

## 指定管理者制度を導入した 2つの診療所を視察

10月17日から3日間、佐呂間町と古平町の指定管理者制度導入の実態を視察し、3月定例会で報告

### ◆調査の概要

浜中町民の相当数が町外の医療機関を受診している現状を改善するには、町民から信頼され、親しまれる医療サービスの提供を進める体制づくりが急務である。地域に根ざした診療所運営と今後の医療体制の確立を図るための調査を実施。

### ●クリニックさろま

佐呂間町は診療所や厚生病院の医師確保のため、道内外の医療機関や個人医師に働きかけを行ってきたが引き受け手がない状態であった。

住民要望は入院病棟19床の確保と継続診療であることから、毎年1億円規模の損失を全額補てんしてきた佐呂間厚生クリニックを閉院、撤退させて、個人診療所から継承した町立診療所を開設。その運営を指定管理者制度に基づき宮城県富谷町に本部がある医療法人恵尚会に町立診療所の管理に関する業務を委託した。

### ●海のまちクリニック

古平町は、平成8年に個人病院の廃院以降、小樽掖済会病院が開院する附属診療所が町民の入院および通院に係る医療を担っており古平町は、その運営費用の一部と医療設備の整備に係る支援を行ってきたが、小樽掖済会病院から病床廃止を告げられ、平成28年3月をもって附属診療所を閉院することになった。

その間、関係機関に協力要請し指定管理者誘致活動を行い、平成28年5月に佐呂間町と同じ医療法人恵尚会に指定管理者制度に基づく運営を委託。古平町立診療所海のまちクリニックを開所し、外来診察を開始した。

### ◆調査意見

両町との違いは、本町には医師が存在しており、診療体制が維持されている現状である。そんな中で、町民に信頼され、親しまれて医療サービスの提供を進める体制づくりを模索しているが、現状は、医師と地域

住民との間の信頼関係であり、スタッフの努力や、町の財政支援があったにしても離れて行った患者・住民はなかなか戻って来ず、町からの繰入金金は、1億4千万円から下がる見通しもない。

「はいかない」という現場の声もあるが、めざす診療体制の確立は困難を窮め、一般会計からの繰入は増えつつあり、これ以上の財政支出は考えられない。

また、医師の定年を区切り、多様な選択肢として、直営・民間委託・指定管理方式など今後準備・検討すべきと考察する。



指定管理者制度により運営されている診療所

# 一般質問

堀金 澄恵 議員



**堀金** 津波避難訓練の内容と課題は。

**町長** 入所当初に災害時の避難訓練の対応と保護者へのお願の事項を全家庭に配布し、その内容に基づき訓練をしている。

注意報は、帰りの準備をして迎えを待つ。

警報・大津波警報は避難準備をして、役場裏山高台を目指して避難。高台から

避難道を通って「ゆうゆ」へ行き、そこで保護者の迎えを待つことになっている。保護者は、安全を確かめてからの迎えとなる。

さまざまな保育場面に応じた訓練を行っている。また、浜中町防災計画の中で配置されている5人の職員が、大きな地震時は対応する。年一回、帰りの時間を利用して保護者との訓練を一緒にを行い、訓練後にアンケートを取り、改善している。

災害はいつ来るかわからないので、悪天候でも、徒歩で避難している。降雨・降雪でも濡れながら避難する。しっかりと大切なお子さんの命を守るよう対応している。

**堀金** 保育所建設は、補助制度も無いとのことだが、緊急防災減災事業債が適用されないか、安全な高台に保育所があれば避難所にもなる。

子供を預け、安心して仕事ができるように、高台移転の考えはないか。

**町長** 災害に強いまちづくりのため、地方単独事業・災害に迅速に対応する情報網の構築・浸水域にあるこの施設は、高台移転も含め対象となる。

28年度、公共施設総合管理計画の策定を委託した。この市町村も昭和後半から平成初期にかけて、公共施設のインフラ整備を実施している。

運営・改修・施設の在り方、整備維持の策定そのことが優先順位となってくる。

霧多布保育所は、40年経過していることからこの計画に乗ってくる。耐震が満



高台移転が望まれる霧多布保育所

たされているからといって安全とは考えていない。今はしっかりと避難訓練をして大切な児童の命を守ることに努めたい。

新庁舎と茶内保育所の建設後、高台移転改築も含め喫緊の課題とされている。

# 一般質問

川村 義春 議員



## 町政執行方針の 具現化に向けて

問

## 掲げた施策の実現に 努力する

答

**川村** 新年度の町政執行方針が示された。産業振興、災害対策、子育て支援の主要施策の具現化に向けたスケジュールなどを問う。

産業振興では、後継者就業交付金制度がスタートする。7人分の予算措置であるが不足の場合は補正による対応は可能か。

また、婚活支援の推進方策とウニ種苗センターの建

設。更に力強い農漁業を確立する手段として、「道の駅」構想の推進は。

**町長** 月額5万円を3年間給付する後継者就業交付金は重要施策。予算不足の場合は補正で対応する。

婚活支援は、漁協が行ったアンケート結果を基に、漁協や青年部関係団体との話し合いを行いたい。

ウニ種苗センターの建設は、今抱えている課題クリアを前提に4億5千万円程度の事業費で平成30年度実施設計、32年度供用開始と考えている。

道の駅構想は、昨年5月に副町長を筆頭に13人で構成する「道の駅庁内検討委員会」を設置し、5回会議を開き意見交換や情報収集を進めてきた。今後は産業団体などの意見集約（ヒアリング）に努め、その結果により、前進できる方向になればその段階で建設準備委員会を設置し建設を目指したい。この企画は失敗できないと思うので慎重に進め、具現化した段階で議論の場を設けたいと思

っている。

**川村** 「地域おこし協力隊」の活用は地域活性化に有効であり、複数の募集を。

**町長** 外からの目線を重視して2人の協力隊を募集する予定であり、観光振興や道の駅構想にもつながる活動などに活用したい。次年度以降3人、4人と増やしていきたい。

**川村** 災害に強い町づくりに関してMGロード入口の

Y字路の改修計画と複線化の進捗状況は。

**町長** 整備計画は道から示されていないが引き続き早期事業化を強く要望する。

**川村** 子育て支援として新たに取り組む妊娠出産包括支援事業の内容は。

**町長** 妊産婦の産前産後サポート（相談）事業と産前産後ケア事業を釧路町の助産院（マタニティアイ）に委託して行う事業である。



子育て世代への支援が充実

# 一般質問

秋森 新二 議員



## 問 昆布の生態の解明と増産対策を

## 答 関係機関と連携して

**秋森** 昆布の裾枯れ、孔あきの時期が早まっている。この原因と影響は。

**町長** 研究機関においても本格的な調査はされていないが、高水温など海中環境の変化が原因と思われる。また、裾枯れ、孔あきが早まり、漁期後半の昆布の品質低下が見受けられるが、翌年の昆布の生育に影響を与えることはないと言われる。

ている。

**秋森** 琵琶瀬湾で20度の水温が記録されたと聞くが、昆布の減産と高水温との因果関係は。

また、観測のためデータロガー（記録式水温計）を昆布漁場に増設する考えはないか。



高水温の影響を受ける昆布

**町長** 一般的に海水温23度以上は昆布の生育に適さないとされている。浜中海域で20度を超えることは今までなかったので関係機関と連携し今後の対応を探っていく。

また、データロガーは琵琶瀬湾と火散布沼のウニ養殖施設に設置されており浜中海域の水温・塩分などの状況観察に重要であるが、外海にある昆布漁場での波浪による消失の問題がクリアできれば増産を考えた。

**秋森** 環境の変化に対応できる昆布品種開発の可能性は。

**町長** 中国では高水温にも耐えられる昆布品種の開発がされているが、浜中海域では別品種の移入による環

境への影響が懸念されるので、当面は既存品種の増産対策を優先したい。

**秋森** 自然石投入による、昆布漁場の再生は。

**町長** 砂の堆積により消失した昆布漁場の存在、その再生に自然石投入が有効であることも認識しているが最も効果的な方策を探るためにも、現状把握から進めて行きたい。

**問** 昆布漁業者の労働力軽減、人員不足対策は

**答** 生産から消費までのサイクル確立が肝要。重要課題として検討していく。

**秋森** 家族操業が基本の昆布漁業の乾燥作業軽減のため、生昆布での出荷は。

**町長** これまでも、労働力軽減、人員不足対策として昆布選葉機や乾燥装置など支援してきた。生昆布での出荷についても新しい発想として注目しているが、30数年前に同様の事業が頓挫しているの、実施にあたっては、生産から保管、宣伝、流通、消費までのサイクルを確立した上で、検討したい。



# 一般質問

田甫 哲朗 議員



## 問 学校トイレの改修計画は

## 答 平成30年度から 計画的に整備

**田甫** 一日の大半を学校で過ごす児童生徒にとって、トイレ環境は大切な要素である。全国的な現状調査は、**教育長** 製薬会社が小学校を対象に実施したアンケート調査では、未だ6割の学校で和式トイレが多く、「臭い・汚い・暗い」といった毎日の掃除では解消できない課題が出ている。また、学校での排便を躊躇・我慢する傾向が多いのも和式が多い学校であり、学校トイレに欲しい物として、6割が「洋式トイレ」を挙げている。

**田甫** 多くの家庭・公共施設で洋式トイレが主流となる中、学校だけが取り残されていると思う。

	霧小	散小中	茶小	浜小	茶一	霧中	茶中	浜中	霧高
水洗	浄化槽	浄化槽	簡易水	簡易水	簡易水	浄化槽	浄化槽	下水道	浄化槽
和式数	15	10	6	7	2	27	4	0	9
洋式数	6	4	4	2	2	4	2	5	6
床	ドライ	ウエット	ウエット	ウエット	ウエット	ウエット	ウエット	ドライ	ドライ
生徒数	112	31	99	37	21	62	58	32	93

**田甫** 本町の実態は。**教育長** 左表のとおり。P T Aなど学校からの要望・意見の集約と、トイレ改修の今後は。**教育長** 毎年、予算編成前に各校からの要望事項を集約している。平成26年度に学校トイレの洋式化を計画したが、暖房設備改修など優先度を考慮して施設整備を行っていない。トイレ改修は、財源確保を含め、平成30年度より簡易水洗の学校から計画的に進める予定。

**田甫** この製薬会社では、出前講座で「トイレ授業」を実施し、排便の大切さやトイレマナーなどを教えている。保健師・養護教諭による同様の取り組みも必要では。**教育長** 保健授業の中で、身体の仕組み・排便の大切さなどは指導しているが、養護教諭を活用した指導は効果的と思われるので、実施に向け検討していく。



望まれる洋式トイレ

# 一般質問

成田 良雄 議員



## 問 自主防災組織の推進を

## 答 現状で対応する

**成田** 住民が安心・安全に暮らすための取り組みとしての防災対策は行政上最も重要な施策の一つである。大規模な災害が発生したときに、被害を未然に防ぐためには、行政の対応（公助）、自分の身を自分の努力によって守る自助と共に、普段から顔を合わせている地域や近隣の人々が集まって、互いに協力し合いなが

ら、防災活動に組織的に取り組む共助が必要である。地域で協力し合う体制や活動の中核は、自主防災組織である。災害対策基本法は、「住民の隣保協同の精神に基づく自発的な防災組織として市町村がその充実に努めなければならない」と規定されている。地域の実情に応じた自主防災組織の結成を全自治会に要請しては。

**町長** 現在は唯一平成25年に丸山散布自治会が自主防災組織を結成し、活動を展開している。沿岸地域16自治会においては、地域別津波避難計画の作成時に検討したが、現在の形態で機能が果たせるとのことから、現状の体制を維持して行く。内陸部の11自治会においては、地震・風水などの災害対策に向け働きかけが必要である。

**成田** 不審者が学校に侵入し、子どもたちや教職員の安全が脅かされたり、通学路などで危害が加えられる事件の発生がみられる。学校などの安全確保は、これまで関係省庁から防犯対策に関する予防措置を計画的に講じるよう指摘されている。小中学校および通学路などの防犯設備などの現状や今後の防犯対策は。

**教育長** 現在、学校では、教職員による登下校の指導や見守りなどを行っており生徒の安全に努めている。また、来訪者の確認は、玄関の限定やインターホンなどで対応している。学校での安全対策は、手引きリーフレットを活用した防犯教室・訓練を実施している。今後も各関係機関との連携をさらに深め、防犯対策に努めていく。



くいすで まなぼう!  
たいせつな  
いのちと  
あんぜん  
もんぶがくしやう  
文部科学省

# 一般質問

加藤 弘二 議員



問

## 前浜の漁業資源の回復をどうするか

答

## 漁民・漁協・有識者の連携で対応したい

**加藤** 浜中町沿岸は元々、漁業資源の宝庫であった。今、前浜漁業は資源が枯渇し危機的状態であるが、町長の思いは。

**町長** 浜中町は産業の町として今までしっかり生きてきた。ただ現状では多くの課題はあるにしても対策を講じていけば、まだまだ生き延びて行けると思っている。前浜に向けて進んでいけば明る

い展望も開ける。

**加藤** 昆布漁場の雑草駆除にSK工法と洗耕機が導入され、流水に代わるものとして昆布漁場で大きな成果を上げている。しかし、洗耕機の弱点も百人百様で意見がある。検討の余地があるのでは。

**町長** 雑草駆除の時期、洗耕機をかけるスピード、1回でなく2回かけた方が良いのか、かけ過ぎることによって、胞子が付着し過ぎて過密に育つなどの意見もあり、相談しながら改良を計りたい。

**加藤** 資源の回復、経営の改善のために、漁民、漁協、行政、有識者が一体となつて、「浜中町漁業研究所」を作る考えはないか。

根室市が「根室市沿岸漁業資源利活用研究事業検討会議」を立ち上げ、全ての魚種について増やして収穫することを制度化して進めている。

**町長** 根室市は産業振興ビジョンを設け、沿岸漁業振興計画を27年度に策定しスタートさせている。このよ

うな取り組みは浜中町の沿岸漁業振興に参考となる。

**加藤** 資源の回復についてと、「底曳き漁業」の禁止が出てくる。禁止しただけで5年間で回復の兆しは見えないと思うが。

**町長** 底曳き、巻き網漁は、浜中沖の水産資源を根こそ



SK工法による雑海藻駆除

ぎ持つてゆく。ただ、法的なことを言われるとすぐに止めることはできない。底曳き漁業者とは「資源を育ててゆく」観点で、対立ではなくどうしたら水産資源を守り、管理して行けるのかを追求して行きたい。

# 麗澤

「浜中学」を学んで

霧多布高等学校

平成28年度卒

小西 泰成



私は「浜中学」のなかで自分が住む町を研究し、人口減少や少子高齢化、第一

次産業の衰退や後継者不足という諸課題を目の当たりにしました。

しかし、浜中町の特産品は関東地方では高級食材として高い評価を受けていることも学びました。こうした学びを進めるなかで地域振興への可能性を感じ、その方策を発見し、実行することが自分への課題だと感じるようになりました。

町内で生産される乳製品や水産加工物の流通が関東圏で留まっている現状を打破し、海外にも販売経路を拡大すれば、今以上に需要が高まり、収入や雇用の増加といった地元の活性化に

つながります。自分が目指す地域経済発展のキーワードは「グローバルな視点」です。通信・流通網の発達のおかげで、世界の社会構造は激変しました。目の前にある事象だけに捕らわれない幅広い考え方が必要です。私は、4月より小樽商科

大学商学部に進学します。小樽商科大学は、地域と世界の両脚を備えた人材育成を目指しており、私が目指す将来像と一致しています。浜中そして北海道のさらなる可能性を創造し、全世界に効果的に発信していく力を身に付けたいです。道内の産品を「メイドインホッカイドウ」としてブランド化を図り、国外へ積極的に発信する。これにより、北海道経済の再生、さらには日本経済の再興に繋がるのではと考えます。

私は中学3年のときに、霧高と釧路市内の高校のどちらに進学するか悩みましたが、今回、志望する国立

大学へ合格が決まった瞬間、霧高に進学し、「浜中学」を学んだことを誇りに思いました。

ご支援ご協力いただいた



浜中町女性協議会主催のふれあい交流会=ペタンクを楽しむ=

地域の皆様に感謝すると同時に、自分を成長させてくれた「浜中学」がこれからさらに発展することを願います。

**● 揮毫** 書道部3年B組 野崎 千樹さん

**● 読み方** れいたく

**● 意味** 共に助け合いながら学ぶこと。



## 表紙の写真

茶内小学校の入学式が、4月6日に行われました。男女合わせて20人のお友達の晴れ姿です。

緊張の面持ちで、先生のお話を聞いていましたが記念撮影の時は、元気なポーズで収まりました。

先生からの「元気に学校へ来ましょう」の呼びかけに大きな声で「はい」と手をあげ、学校生活に胸を弾ませていました。

## あとがき

春4月、根雪も解け樹木に新たな力が芽吹く頃、新入学・新入社など人の営みも新たなスタートの季節。

少子高齢化が叫ばれて久しい中、いよいよ人口減少が社会問題化の時代。嘆いてばかりもいられない。あの手この手の対策と、若い力を育てることが求められます。

山本五十六の名言に人材育成の秘訣がありました。『やってみせ、言ってみせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ』『話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず』

『やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず』  
硬くなつた頭でも、柔軟な思考ができるよう努めたいと思います。

(委員 田甫)

文化を高め、きまりを守り  
平和なまちをつくりましょう。  
(町民憲章より)